

# 平成29年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 三好市立池田中学校

(※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園     小学校     小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校     中高一貫<sup>※注2</sup>     高等学校  
 教員養成大学     専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む    ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒778-0001

徳島県三好市池田町ウエノ2861番地1

E-mail ikedaj@miyoshi.ed.jp

Website http://www.miyoshi.ed.jp/ikedachu/

幼児児童生徒数 男子 127 名    女子 93 名    合計 220 名

幼児・児童・生徒の年齢 13 歳～ 15 歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1, 2-1に対応

当校は、ESDの視点を取り入れて、これまでの教育活動に関連性と系統性をもたせることにより、持続可能な社会の担い手として必要な知識・技能・態度・実践力を育成することを目標とした。活動テーマは、「人と環境にやさしい学校づくり」である。具体的には、環境教育・人権教育を柱に、①環境保全に係わる活動、②多様性の理解に関わる学習、③平和学習、④地域の伝統と文化を理解する学習、⑤共生社会の実現に関する学習を行った。

### ① 環境保全に係わる活動

徳島県学校版環境ISO認定校として様々な環境保全活動に取り組んでいる。創立以来の9年間の月々の電気使用量を表にして職員・生徒に周知するとともに、特に電気使用量が多くなる夏と冬には積極的に節電の呼びかけをしている。また、給食の残量調査・教室での紙資源の回収や学校祭でのゴミステーション設置などは、生徒会専門委員会が中心となって取り組んでおり、学校全体としてエコスクールを推進している。本年度は、1・2年生がジオパーク検定を受け、高い合格率をあげ、地域の自然環境への関心を高めた。

## ② 多様性の理解に係わる学習

9月から11月まで、3年生が「性の多様性と人権」というテーマで人権学習に取り組んだ。知識・理解を深めることから始まり、段階的に学習を重ねた。中でも、性的マイノリティを支援するグループとの交流学习は、多様性への開かれた心を育むことに繋がった。「誰もが伸び伸びと生きやすい社会を作ろう」という意欲が高まった学習であった。

2年生もブラジルのラフティング選手と、国籍や言語を超えて人との温かい交流の機会をもち、多様性への理解を深めた。

## ③ 平和学習

2年生が、4.5月を中心に平和学習を行った。太平洋戦争での広島・長崎への原爆投下の経緯、その被害の大きさや被爆者の苦しみや悲しみを学習した。その後、修学旅行で長崎市を訪問し、平和資料館を見学したり語り部から話を聞いたりした。一連の学習を通して、平和の尊さをかみしめ、平和な社会の構築の必要性を強く感じていた。

## ④ 地域の伝統文化を理解するための学習

2年生が、徳島県北部・西部に受け継がれる祝福芸「三番叟まわし」について学習した。三番叟まわしが衰退した理由を、社会環境の変化とこの芸能に関わる人々への差別意識の厳しさにあることを知り、三番叟まわしの継承に取り組む人々の思いや願いを学んだ。また、門付けを受け入れる地域の人々からの聞き取り調査を行うなどして伝統文化への理解を深めた。

## ⑤ 共生社会の実現に関する学習

ユニバーサルデザインの考え方を学んだうえで、地域の重要課題である高齢者の問題にスポットを当てた。高齢者を初めとするすべての人々がよりよく生きていける共生社会の在り方について考えた。



①給食委員会の残量調べ



②3年生 SAG徳島との交流学习



③2年生 三番叟まわし講演会



⑤1年生 福祉体験（手話講座）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項1-2, 2-1に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解, 文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化, 文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育(GCED)	
<input checked="" type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的, 総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(由記入 )	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

エ. 使用した教材 (書籍, ウェブサイト, パンフレットなど具体名)

DVD「セクシュアルマイノリティ理解のために」 (“共生社会をつくる”セクシュアルマイノリティ支援全国ネットワーク教育PT) 書籍「SEXUALITY 虹の架け橋をわたる」(エイデル研究所) 書籍「阿波のでこまわし」(解放出版社) 書籍「福を運んだ『でこまわし』」(芝原生活文化研究所) 書籍「徳島県地学のガイド」(コロナ社) 他
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程 (指導計画) にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め, 指導方法の工夫改善に努めているか。(200~300字程度)

※チェック事項1-2, 1-3に対応

ユネスコスクールとして新たな活動に取り組むのではなく、これまで行ってきた教育活動をESDの視点でとらえ直すようにしている。特に、総合的な学習は学年単位で実施しているので、時間を掛けて積み重ねができる。テーマは、防災・国際理解・多文化理解・地域の伝統文化・人権と平和など多岐にわたり、広範で多様な学習をしている。

どの学年も、身近な課題から出発してフィールドワークや関係者との交流など、体験を生かした探究的な学習になるように努めている。また、前年度の学習を発展的に継続して取り組めるように計画している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項1-4に対応

校内にESD掲示板を設置し、テーマを明示すると共に、過去の取組・現在の取組をSDGsの17の目標につながるように分類して掲示している。一覧性があるだけでなく、個々の活動の関連やバランスも分かるようになっている。これにより、生徒が学習活動の意義を認識できる。また、保護者などの来校者に向けて、本校の取組を周知する目的もある。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

※チェック事項1-5に対応

環境保全活動の取組に関しては、1年に1回、徳島県学校版環境ISOに係る内部評価を県教育委員会に提出し、認証継続の審査を受けている。しかし、内部評価を教育活動にフィードバックする体制が不十分であり、今後の課題である。今後は、その他の教育活動に対する評価の方法と活用法を研究する必要がある。

- ⑤ ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度)

※チェック事項2-2に対応

11月9日、文部科学省指定中学校人権教育研究発表会を実施した。研究紀要には、学校全体の取組として、ユネスコスクールの取組を2ページにわたって報告した。また、本校のホームページや学校新聞、学年通信などを通して、活動の様子を発信しており、学校の教育活動に対して保護者や地域の理解と協力を得られている。中学校としては徳島県で唯一の加盟校であることを念頭に、近隣の他校の加盟を促すような発信をしていきたい。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）  
（200字程度）

※チェック事項2-3に対応

次の団体と連携して取組を進めた。  
鳴門教育大学・SAG徳島・阿波木偶箱まわし保存会・三好市社会福祉協議会・障がい児入所施設「池田学園」・三好市教育委員会文化財課・地域の人々など

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項2-4に対応

現在は直接的な交流・ネットワーク形成はできていない。今後はユネスコスクールのサイトを活用するなどして、近隣のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成ができるような方途を見出したい。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項2-5に対応

3年生が「性の多様性と人権」をテーマに学習に取り組んだ。※（1）活動の概要②参照

先進的な取組で先行事例も少ない中、指導計画や教材の選定などには時間がかかったが、鳴門教育大学を始め多くの方々からの協力もあり、生徒を深い学びに導くことができた。セクシュアルマイノリティ当事者からの話や支援団体（SAG徳島）のメンバーとの交流学习が、生徒たちの変容に大きな効果をもたらした。

2年生が行った国際理解学習「ラフティング世界選手権大会を成功させよう」（国語科）「ラフティング ブラジルチームと交流しよう」（総合的な学習）でも、直接関係者と会うことで生徒たちの学習意欲が高まった。

今日、欲しい情報はインターネットなどから容易に入手することが可能だが、人と人との関係づくりは、直接会って語り合うことが重要であり、それが学習意欲を高め学びの質を上げることを指導者として再認識した。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

- ・学校全体の方向性としては「人と環境にやさしい学校づくり」を目指す。
- ・基本的に、本年度の実践を継続的・発展的に取り組む。
- ・各教科の目標と単元の目標をESDの視点で捉え直し、機会を設けてESD的なトピックを盛り込むようにする。
- ・総合的な学習は、1年生は地域と福祉、2年生は平和と防災、3年生は自立と進路をテーマに、SDGs 17とリンクする学習活動を計画する。
- ・生徒会活動を活発化させ、引き続き、環境保全・ボランティア・食育などに取り組む。